

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二二七二〇七



動労千葉95名は、鉄輪旗・横断幕を掲げて総評隊列1万8千のデモを戦闘的に牽引。

12月9日の核空母入港阻止の横須賀連綿闘争に参戦

米海軍の最新鋭原子力核空母「カールビンソン」入港阻止集会が、十二月九日、十日の両日にかけて横須賀臨海公園で開催された。九日の総評・社会党・護憲連合などの主催した集会には東日本から一万八千人が参加、動労千葉も全支部から九五名の動員をもって参加し、さらに翌日十日も、総評・社会党・民主党・民主団体等による海上デモ、集会にも代表を派遣し、カールビンソンが出港するまでの連続した闘いを連日にわたり最先頭で闘いぬいた。

動労千葉、総評隊列の最先頭でたたかいを牽引

「十二・九カールビンソン横須賀寄港反対東日本二万人集会」は、日本社会党の石橋委員長、総評の黒川議長、護憲連合の飛鳥田議長らが、それぞれ「カールビンソン寄港は、日本国民の反戦・反核意識をふみにじり、これを解体せんとするもので絶対許せない」「軍事大国化・日米韓軍事一体化を強引に押し進める中曽根政権と対決していこう」とあいさつ。決議文を採択した後、米軍基地へむけ、抗議の市内デモに出発した。

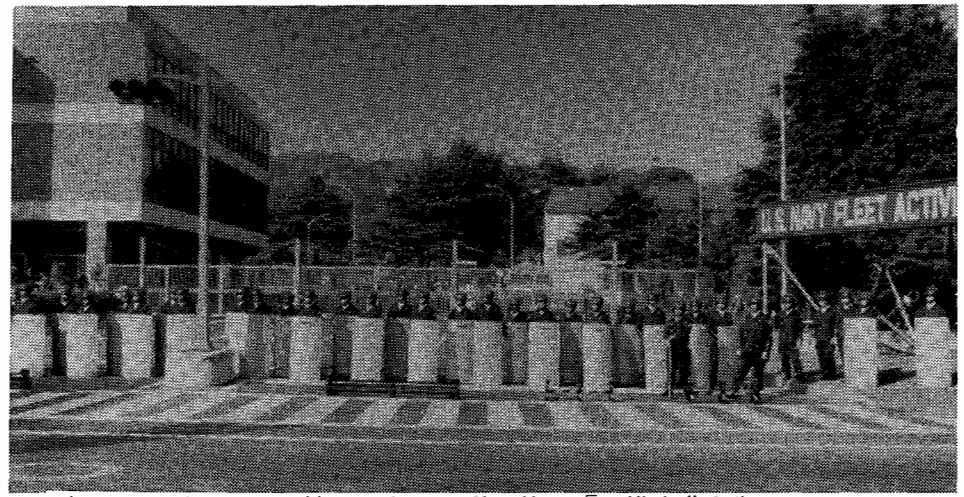
デモは、千葉県下の労働者の隊列が最先頭を担った。横須賀基地ゲート前では、総評の抗議団のすぐ後に動労千葉の隊列が陣取り、怒りのシュプレヒコールと弾劾の嵐を叩きつけた。機動隊の不当な弾圧をはねのけ、「カールビンソン寄港阻止」「三里塚二期阻止」「国鉄分割・民営化阻止」の声が街にひびきわたった。

動労千葉の参加者は横断幕を押し立てて、文字通り元氣一ぱいのスクラムデモとかけ声、シュプレヒコールでこのデモ隊列の先頭に立って牽引した。一方、反戦政治闘争をまともに闘わなくなつて久しいばかりか、国鉄当局・中曽根の手先になり下つた動労「本部」革マルは、この日、アリバイ闘争すら組織できず、村上らたつたの二十

レーガン中曽根による核もち込み―核武装攻撃を許すな！

核空母の横須賀Ⅱ首都圏への寄港の強行は、初めてのことであり、それ自体重大な攻撃である。中曽根はこの間、「不沈空母」だ「西側の一員」だとレーガンの核戦争政策に呼応しつつ独自の軍事大国化・核武装化への攻撃を強化させてきた。

核巡航ミサイルトマホークの極東配備、その積載予定艦の日本寄港の容認等は、明らかに「非核三原則」のなしくずしの形骸化を狙つたものである。



空母ミッドウエーに続き、なしくずし的に「母港」化を狙っている米海軍横須賀基地は十重二十重に機動隊で固められている。



多くの市民の見守る中、基地正門前で怒りのシュプレヒコール。

こうした上で、世界最大の原子力核空母「カールビンソン」を世界最大の軍事演習「戦争挑発Ⅱ」「フリーテックス85」や「日米共同対潜特別訓練」をくりひろげた直後、横須賀に寄港させるということは、日本人民の反戦・反核意識の解体、日本全土の核基地化、独自の核武装化をもめざしたすさまじい攻撃のエスカレーションであり絶対に許すことはできない。

とどまるところを知らない核軍拡競争の激化、中曽根の「核使用は核保有国の勝手」なる暴言に示されるごとく、帝国主義者は労働者を核戦争Ⅱ死へと勝手に引きずりこもうとしている。われわれは今こそ、反戦・反核・中曽根打倒をかちとらなければならぬ。中曽根は今日、軍大化・改憲攻撃の軸を、三里塚と国鉄にすえ、なりふりかまわぬ攻撃にうつてでている。「三里塚」と「反戦・反核」を結合し闘う中の中曽根打倒の勝利の道がある。三里塚・国鉄決戦勝利・中曽根打倒へ最先頭で闘おう。（寄稿）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！